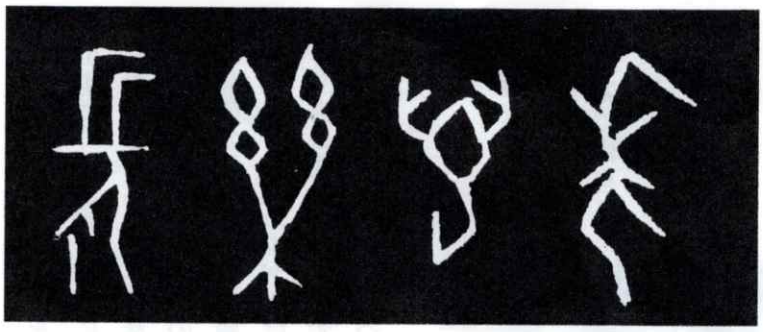
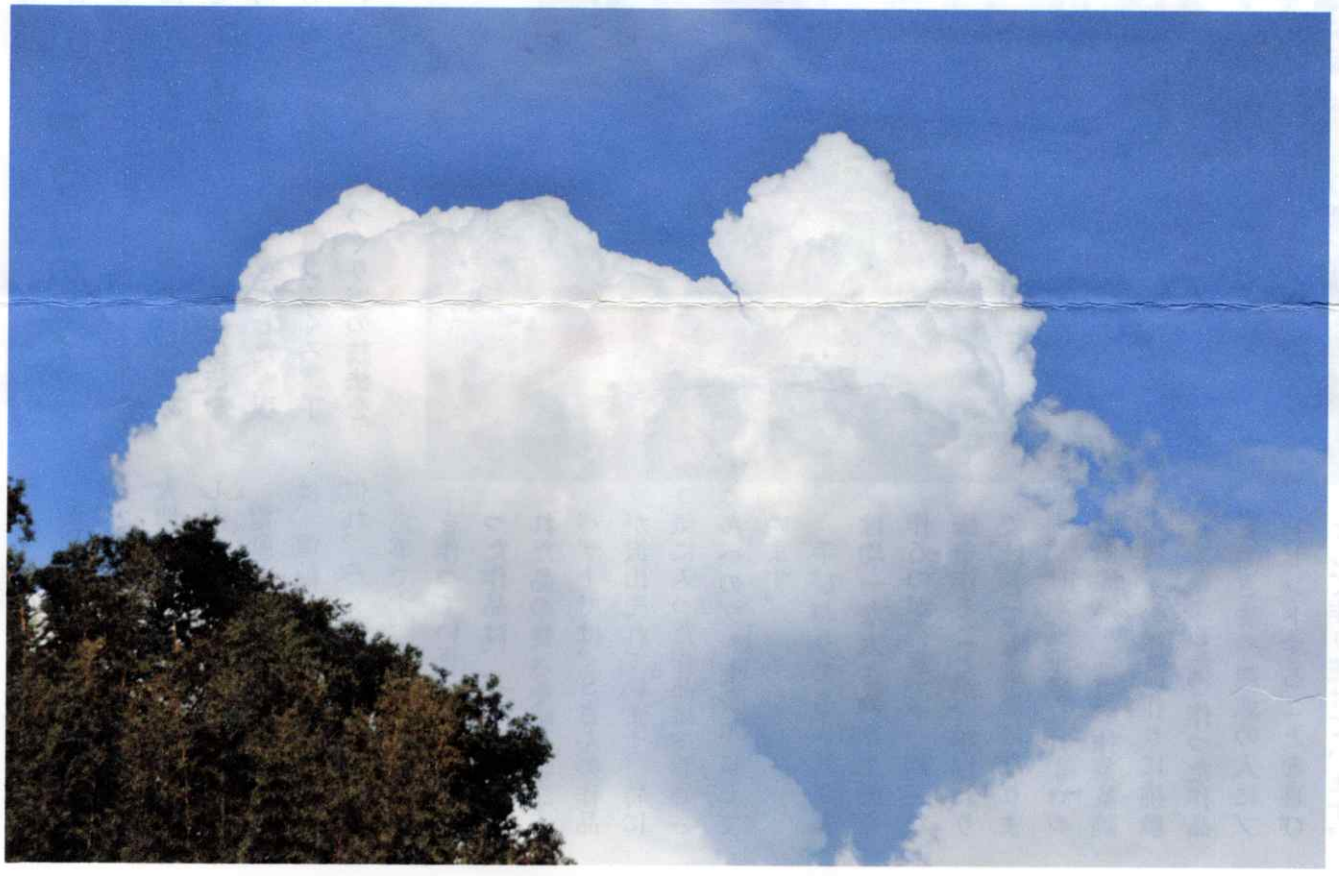


楽庵ニュース　第13号

2015年7月25日

発行元：NPO法人茅ヶ崎ユニバーサルデザインスクエア
地域活動支援センター　楽庵
茅ケ崎市浜竹3－4－64
AX　0467－86－5898
ホームページ http://park11.wakwak.com/~rakuan
メールアドレス rakuan@aq.wakwak.com

＊長楽萬年（古代文字）：楽しいことの幾久しく限りないこと。



湘南　四季の花　　真夏の空にもくもくと雲が湧く＝藤沢市藤が岡

こだわりと依存

当事者のニーズ

誰もが思うように事が進まないとちょっとしたことで感情的になり周囲に攻撃的になる。あることにこだわり融通がきかなくなり柔軟に考えることが難しくなる。自分が不適切なふるまいをしているのに他人のせいにしてしまう。こだわったり、だれかに依存したりする。

茅ヶ崎養護学校の元教員、三好純一先生は「ニーズのない支援はおせっかい」を要旨に持論を展開された。「スペースなな」の施設長本間真一先生も「高次脳障害にとって大切なのは自律。本人が生きていく過程で気づいていくこと」が目標ではないかと強調された。　病気や事故にあって大きな不安を抱えるメンバーのニーズとは何か？　自律するための取り組みとは何かを考えた。

今年度、ご家族の面談を実施した。できるだけ本人の意思を尊重して自己決定に沿うようにしているがコミュニケーションが難しいとの多数意見があった。発症以前のセルフイメージとの差に困惑していたり、以前からこうだったと自分を防衛することが多いと言われた。脳外傷や脳血管障害に伴う高次脳障害者の多くが状況にうまく対処できない不安を抱えている。事実にもとづかない推論をしている場合もあり現在の環境に適応できない理由は単一ではないと思われる。楽庵では「問題をなくすこと」よりも「今落ち着いてできる行動を増やすこと」に力を入れている。一般的には注意、叱責、禁止、放任、全面受容、無視などの

対応があるが適切な行動を導き出すために家族と同様に苦慮しながらスタッフも生活している。　家族や本人との面談で病前の教育歴や生活観を聞いて、本人のニーズとは何かを推測し混乱を少なくするための環境調整や対応について考えることができた。

さまざまな活動を通して今後も楽庵では自らが楽庵というコミュニティに貢献し辛抱強く自分の意見を自由に述べること、不安や不満は当事者同士で喜びを分かちあうことで解消していくと考えている。スタッフ一同、相互性・自発性・関係性を尊重していきたいとあらためて考えている。

（近藤裕美）

陶芸活動の様子

日本の伝統工芸の一つである陶芸は、いろいろな技法を使って作られてきました。現在楽庵では、電動ろくろ、手びねり、板づくり等の技法を使って作品を作っています。

最初に基本的な技法を学習し、個性や一人一人の思いを大切にしながら作品作りを楽しんでいます。

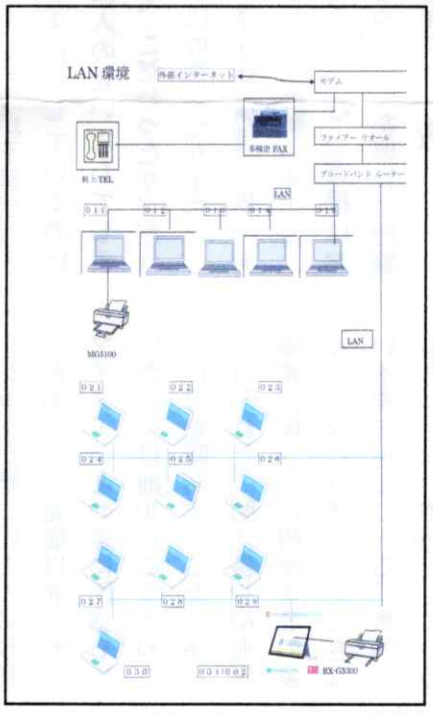
電動ろくろの達人のSさんは、電動ろくろにもすっかり慣れ、ろくろさばきはとても見事です。主にお皿や茶碗を作っています。出来上がった作品は、バランスのとれた品の良さを感じます。バザーでは、Sさんの作品が沢山売れています。特に気に入った作品は、お姉さんへのプレゼントにしています。

手びねりの名人Kさんは均一な太さの粘土紐を作るのが得意です。均一な紐を作ることが、手びねりではとても重要になります。日本風家屋、ヨーロッパ風建築、瓢箪、抹茶茶碗…等々の作品作りに挑戦してきました。作った作品を奥さまや親戚の人にプレゼントすることを喜びとして作り続けています。

板づくりの名人Tさんは、薄い粘土板を作るのが上手です。コーヒーカップやお皿を作っています。最近は、「海・鳥帽子岩・波」をテーマとして皿づくりに挑戦しています。それは、彼が若い頃からサーフィンが大好きで、海と共に歩んできた経験から出て来たものだと思います。奥さまも温かく彼の作品作りを見守っています。

楽庵では、今日も「数年後に、楽庵展ができればいいね。」と、陶芸を楽しんでいます。

パソコンシステム　更新中



昨年度から今年度にかけてパソコンシステムを総入れ替えしています。

一般に、パソコンの寿命は4～6年といわれています。当所では、ノートパソコン・デスクトップパソコンが、すでに7年目に入っており、数台は1年前から動作しなくなっています。今後故障機が増加するのは避けられません。

また　システムプログラムのサポート期限もあり、3年以内に更新しておく必要があります。　システムを更新することにより消費電力が抑えられ、節電につながります。また、就労に向けての最新のPC技術を学習・吸収できます。さらにパソコン教室では地域の方々に、タイムリーなPC操作技術が提供できます。

この1年の活動・行事

ネットワーク会議

町内会役員さん、民生委員さん障害者関係団体、福祉相談員、および職員が参加し、楽庵と地域とのそれぞれの活動の協力関係について審議、意見交換を行いました。

5／30　7／25　10／3
11／28　12／10　1／30
3／27

研修・学習

職員会議・ネットワーク会議・NPO総会等で以下の研修・学習を行いました

「高次脳機能障害者の自立と自律」
脳外傷友の会ナナ理事長
大塚由美子さん

「コーチング」
JCAK　伊藤恵子さん

「権利擁護セミナー
成年後見制度」
みなと横浜法律事務所
内嶋純一弁護士

「児童教育における合理的配慮」
茅ヶ崎養護学校
三好純一さん

「高次脳機能障害の生活課題」
スペースナナ施設長
本間真司さん

ご家族の方、福祉相談員の方の質問・意見等、有意義な研修ができました。

お出かけ行事

「梨狩りと里山散策」

「中華バイキングと横浜散策」

「花見・大庭城址公園と引地川親水公園」

中華街でバイキング

横浜山手西洋館散策（外交官の家）

藤沢大庭城址公園は満開のさくら

作品展・バザー

浜竹3丁目納涼祭(7／26)
鈴の当たり籤が好評でした。今年は7／25です。

松浪福祉ふれあい祭り（10月）
中学生が手伝ってくれました。

養護学校文化祭（11月）
ボランティア祭り（11月）

松浪福祉ふれあい祭り 展示ブース

好例の教会バザー

ふれあい作品展（6・12月）
茅ヶ崎市総合体育館にて

イオン展（9・3月）、
イオン茅ヶ崎中央店にて

教会バザー（5／31）
カトリック茅ヶ崎教会

不用品のご寄附、ありがとうございました。

展示紹介

福祉会館に二ヶ月間2度、市役所ロビーに一ヶ月間2度、展示、紹介させていただきました。

27年7月より、松浪コミュニティーセンターにも常設展示させていただくことになりました。

平成26年度NPO総会

6月6日(土)10時～

理事会で承認された以下の項目について報告、承認されました。

平成26年度の事業報告
決算報告、監査報告
平成27年度の事業計画
予算説明

NPO総会 風景

今後の予定

新しい外出行事として、里山公園または柳島公園でのバーベキューを検討しています

乞うご期待

この人

理事　水口　靖さん

松浪学区民生委員
児童委員協議会会長

水口さんは、ふだんは口数が少ないが、ヨットになると笑顔が多くなる。海遊クラブという団体で毎月、障害者や高齢者と一緒に江ノ島湾内をヨットで楽しんでおられる。

障害者と海にでて一番気を使うのはコミュニケーションだという。広い海の上では視覚障害の方は風の方向はわかっても自分のいる位置をたしかめようがない。ヨットの上で今どの方向をめざしているのか、３６０度の角度を時計の針で示すらしい。　正面は12時、右は3時。今12時の方向に江ノ島がある　というように説明するらしい。周囲の様子もことばで説明するのが難しいといわれた。ヨットにのるようになって車椅子利用の人への介助方法なども覚え、ヨットに乗り移るときにどのような介助が必要なのかも体験して覚えられた。　さりげない心つかいがヨットを一緒に楽しむときに大切になると言われる。ヨットには、健常者と障害者、健常者と高齢者がペアになって乗る。レスキュー隊も別に帆走する。湘南ならではの活動だ。ＮＰＯセイラビリティ江ノ島へ申し込めばヨットの体験ができる。湘南ならではの取り組みを聞いてうれしかった。

水口さんは元大学職員であった。　定年になって自治会長のすすめで民生委員になった。　現在、他の市町村では民生委員に欠員がでている。さまざまな社会問題、こどもへの虐待・高齢者の孤独死などがある。地域で安全に暮らしていくためには民生委員の役割は大きい。ボランテイア精神がなければ勤まらない仕事だ。水口さんは10年つとめて民生委員を引き受けてよかったといわれた。東京で勤務していたときと違って、今は地域に知り合いもでき楽しいといわれる。ヨットで健康つくり仲間つくりもして、さらに市民・自治会と連携しながら安全な町つくりをするための活動ができることに生きがいを感じているようだ。家庭では二人のお子さんと四人のお孫さんがいて、まずは自分の家庭の運営だといわれる。買い物や炊事なども積極的に引き受けておられる。

江ノ島湾内セイリング体験

水口さんに学ぶことは多い

編集後記

6月27日に姜尚中さんの講演会「漱石とこころ」があった。漱石は小説に明治時代の社会を徹底的に描いている

自身は躁鬱病に悩み、妻鏡子に突然暴言を吐いたりしたこともあったらしい。小さい頃、親から邪険にされたりしていた。漱石は「人間は自由な存在であるが本性は自由ではない」といっている。社会の矛盾を小説で諧謔的に表現している。

私たちも今いる状況をひとりひとり問い直す必要がある時代のように感じた。